

## 平成 30 年度（後期）海外渡航旅費助成金成果報告書

九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻 修士課程 2 年

渡邊早姫

日本地震学会より海外渡航旅費助成金をいただき、2018 年 12 月 10 日から 14 日までアメリカ合衆国・ワシントン DC で開催された American Geophysical Union (AGU) Fall Meeting に参加しましたので、ご報告いたします。

AGU Fall Meeting への参加は、昨年につき 2 回目でした。昨年の発表では、人と関わること自体は大好きな私ですが、英語での発表にあまり自信がもてず、海外の方が見に来てくださっても、消極的になってしまったという反省点がありました。今回は昨年の失敗を改善しようと、昨年度よりも海外の方と話す機会をつくり、英会話の練習をして挑みました。

大会 3 日目のポスターセッションで、私は「Spatio-temporal Variation of Seismic Energy Released by Shallow Low-frequency Tremors in the Hyuga-nada, SW Japan, revealed by Ocean Bottom Seismological Observation」というタイトルで発表を行いました。沈み込み帯のプレート境界で発生する浅部低周波微動による地震波エネルギー解放量を定量的に見積もり、時空間的特徴について発表しました。結果的に、海外の方だけではなく、日本の方とも、積極的に話しかけ、議論をすることができました。うまく言葉にできなくても、必死に聞いてくださる方々のおかげで、次は説明の仕方を変えてみようなどと自分の考えを整理しつつ、改善しながら発表することができました。昨年よりもあっという間の 4 時間でした。

自分の発表以外では、自分の研究に関連するような海底地震計やスロー地震、沈み込み帯、摩擦、そして海山などをキーワードにオーラルセッションやポスター会場をみて回りました。今年は地震学とともに学ぶ友人が増えたので、自身の研究のことや、研究以外にも自分の考えを語り合うことができました。特に、友人とタクシーの運転手さんと日本の少子化問題について話し合ったことは、毎日会うような仲ではなくとも、気軽に自分の考えを表現し、共有し合う、アメリカの自由な風土を物語っていると感じました。私もさらに様々な分野の情報を吸収し、自分の意見をしっかりともち、多くの人との議論を楽しみながら生きていきたいと改めて感じました。また、自分の今回の発表やその準備を通して、解釈の熟考がより必要だと感じているので、修士研究をまとめるにあたって、さらに努力しようと改めて感じました。

最後になりましたが、海外渡航旅費助成金を援助していただき、このような経験ができる

機会を与えてくださった日本地震学会および関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。  
本当にありがとうございました。